

【中学校の部】 最優秀賞 (大分県教育の日推進会議会長賞)

私と祖母

竹田市立直入中学校 3年
大濱 日奈子



「財布と保険証どこやったかな。どこ行っても見つからんわ。誰か取ったんじゃねえじゃろか。」
私は祖母の言葉に衝撃を受けました。

私の祖母は、私が小さい頃から一緒に暮らしていて、いつも身の周りのお世話をテキパキとこなしてくれていました。祖母が横になっている姿など見たことがない程、お皿を洗ったり、洗濯をしたり草むしりをしたりして、本当に忙しく動き回っていました。私のごはんを作ってくれることもあり、中でも祖母の卵焼きはとてもおいしいのです。そんなしっかり者の祖母がこのようなことを言うのは、私にとって衝撃でした。

「財布と保険証どこやったかな。どこ行っても見つからんわ。誰か取ったんじゃねえじゃろか。」
私は驚きました。なんでそんなこと言うの。私の聞き間違い？でもそれは違いました。祖母ははっきりとそう言ったのです。驚きから次第に怒りも生まれてきました。

「なんで人のせいにするん？自分がなくした事なのに。」

勢いのあまり言葉に出してしまいました。人のせいにするなんて信じられない。私はショックを受けました。

そんなことを言った祖母を許せなかった私は、母に祖母の発言のことを言うと母も驚き、祖母を病院へ連れていってくれました。そこで出た診断は、軽度の認知症だということでした。今は軽度でも、日に日に進行していくということでした。私は不安でした。このまま何も分からなくなって、私の名前を言えなくなったらどうしよう。進行を抑える薬は飲むことになったものの、私の不安は消えませんでした。

少したったある時、私はテレビを見ていました。そこで流れたのが、偶然にも「認知症との付き合い方」でした。普段は、そのような番組を見ることのなかった私ですが、この時ばかりは、釘付けになりました。その番組では、実際に認知症の家族がいる家庭の話や、専門家による解説が流れました。私の中で最も心をひかれたのは、「認知症の人との会話」についてでした。否定したり叱ったりすると、逆に進行してしまうことや、常に理解してあげるという心構えを持っていなければいけないということがわかりました。私は今まで逆の事を考えていたからです。間違ったことを言っているときは注意して、心掛けさせてあげれば認知症は治る、そんな浅はかな考えで私は祖母の認知症と向き合っていたのです。とても後悔しました。あの時なんで怒ったんだろう。もしかして、私のせいで進行してたりしないかな。後悔することはたくさんありました。

そこで私は決心しました。今までの分を取り戻すくらいに祖母を支えて、理解しようと。そこからの私は変わりました。

「一緒に探してみよう。そこらへんにあるかもしれんよ。」

やさしく声をかけたり、祖母と同じ目線になって考えたりすることもできるようになりました。すると、今までのように気をはりつめたり、いやな思いになったりすることなく、逆に楽に過ごすことができるようになりました。また、祖母が私に、

「ありがとう。」

と言ってくれることが多くなり、とても嬉しくなりました。これは私だけでなく家族にも伝染するようになりました。すると家族は前より明るくなり、会話がはずむようになりました。

認知症は、とても付き合い方が難しい病気ですが、ひと工夫すれば、明るい生活を過ごすことができます。私は祖母のおかげで新しい気づきをすることができました。これまでたくさん私のお世話をしてくれた祖母を、今度は私が理解し、支えていきたいと思っています。

